

全学共通教育 国際学生シンポジウムに迫る！

全学共通教育国際学生シンポジウムとは

全学共通教育国際学生シンポジウムは、京都大学における初年次教育プログラムの一環として、本年度初開催されるシンポジウムです。本シンポジウムでは、学生の興味・関心に基づく研究の成果を英語で論文にまとめ、発表することを通して、将来、学術研究と社会の両方の場で国際的に活躍できる優秀な人材育成の機会を目指しています。運営は京都大学の現役学部生、現役院生によってなされます。



実行委員長のことば

近年、高等教育のユニバーサル化が進み、多様な学生が高等教育に進学する一方、卒業時の質保証が求められており、大学教育の改革と充実が急務となっています。アメリカで導入された初年次教育が日本の高等教育機関においてもすでに多く取り入れられ、効果を上げている大学の事例も数多く報告されています。

京都大学においても本年度より初年次教育プログラムが試行され、今後その在り方も含めて本格的に導入されることとなっています。本学における初年次教育の取り組みの中で、本シンポジウムでは、深い教養と高い識見及び国際的な視野の主体的習得を目標として、学生が抱える不安や疑問を支援しつつ、学生が持つ探求心を開花させたいと考えています。
(実行委員長 酒井清道)



シンポジウム詳細

第一回全学共通教育国際学生シンポジウム

「探究心 世界に魅せなきゃ MOTTAINAI」

日時・場所

2011年3月10日 13:30～

於 時計台百周年記念ホール（一般学生も聴講自由）

プログラム

最終選考に残った10名が、研究成果を英語で発表します。
優秀者は松本紘京都大学総長から表彰される予定です。

はみだし
すてーじ

大学のトイレからすき焼きのにおいがします。
⇒ごめんなさい、僕が食べてました。

当日の流れ

- 13:30 開会式・講演
- 14:30 発表第一部
- 15:30 休憩
- 15:40 発表第二部
- 16:40 授賞式・閉会式
- 17:30 ポスター発表・懇親会（18:30終了予定）

(理・4 ニコにゃん)
(今度一緒に食べましょう；編)

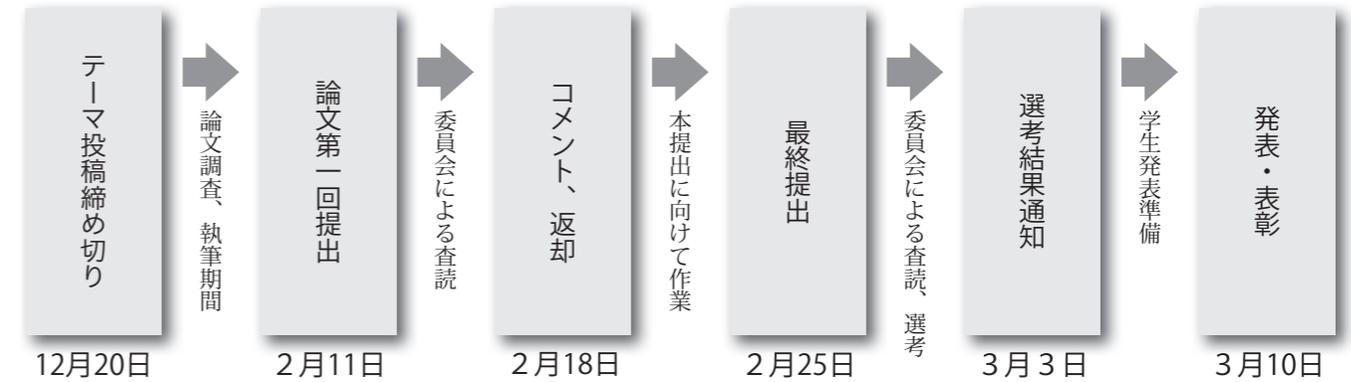
論文投稿者募集！

本年度の論文投稿はもう終了しましたが、シンポジウムは次年度以降も開催されます。今年参加できなかった人は来年参加してみたいはかがでしょうか。



投稿・発表の流れ

今年度の投稿・発表の流れを以下に示します。次年度の参考にしてください。



参加によるメリット

①出会い

査読や発表を通して普段出会わないような志の高い先輩や同級生に出会い、自分の専門分野以外の研究に触れることができます。

②スキルアップ

研究を通して興味のある分野の知識を増やせます。また、卒業論文、学術論文などの書き方を学べます。特に英語論文の書き方を学べることは有意義です。

③経験

本シンポジウムでの経験は、今後の研究活動に役立ちます。就職活動の際には参加の経験そのものがアピールになります。

サポートシステム

本シンポジウムにはサポートシステムが導入されています。研究・テーマ設定について、この機会に初めて論文を書く学生のために、4年生、大学院生によりサポートを行うシステムです。次年度からのシンポジウムでサポートを受けたい方は、下記の実行委員会に連絡するとよいでしょう。

実行委員会連絡先
Eメール：sympo2011@gmail.com
実行委員長 酒井清道
代表 小山田耕二（京都大学高等教育研究開発推進センター）

はみだし
すてーじ

北部食堂で「ピビンバ丼」が売ってたのですがピビンバの偽物ですか？
⇒いいえ、北部食堂で提供されているものは全て本物です。

『研究の世界』を履修しよう！



▲『研究の世界』の講義の様子

やはり論文を書くのは難しそう、と思う人は全学共通科目『研究の世界』の履修がおすすめです。この授業では研究に必要な情報活用能力について体験的に学習できます。表計算ソフトを使った情報分析や大型表示装置を使った研究発表など、様々な研究において必要な情報活用能力の習得が期待できます。また、授業内でも研究論文を執筆し、その論文を本シンポジウムに投稿します。

(工・3 風霊守)
(今度一緒に食べましょう；編)